

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320010

研究課題名(和文) 情報化時代における中国学次世代研究基盤の確立

研究課題名(英文) Establish new fundamentals of the Chinese studies (Sinology) in digital age

研究代表者

二階堂 善弘 (NIKAIDO, Yoshihiro)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70292258

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、情報化時代に対応した新たな中国学の研究・教育基盤を確立することを目的に、まず中国学を専攻する学生・大学院生・教員へのアンケート調査を実施して現状把握と分析を行った。その上で、中国学デジタルリソースの情報集約と分析・評価、ITC活用による中国学専門教育・中国語教育および初年次教育の実践的研究、中国学情報化に関連する法律問題、およびITC技術を活用した人文学研究方法等に関する研究を行った。研究期間中、漢字文献情報処理研究会との連携のもと、毎年2回のシンポジウム・学会を開催し、同会機関誌『漢字文献情報処理研究』に継続的に研究成果を公表するとともに、研究成果図書を計4冊刊行した。

研究成果の概要(英文)：In this research project, in order to establish new fundamentals of the Chinese studies (Sinology) in digital age, we have advanced these researches: Based on the questionnaire surveys to graduate students, postgraduates and teachers of the Chinese studies in Japan, we summarized and analyzed the information of the digital resources for the Chinese studies, and have conducted the practical researches on ICT-based education of Sinology, Chinese and first year education, as well as the legal aspects of the digitized Chinese studies and the methodology of the Digital Humanities. As a result of these researches, in collaboration with the Japan Association For East Asian Text Processing, we organized two symposia per year, published the research papers on the journal, and issued four books on these topics.

研究分野：中国哲学・道教

キーワード：中国学 ICT 人文情報学 情報化教育 テキスト分析 文献データベース

1. 研究開始当初の背景

中国学研究の情報化は、1990年代後半より、インターネットの普及とともに進展した。台湾中央研究院の漢籍電子文に続き、中国で『四庫全書』・『四部叢刊』電子版、中国基本古籍庫などが続々と開発され、いまや中国古典文献のかなりの部分が電子化され、検索できるようになっている。また Windows などの OS、また Unicode などの文字規格の進化によって、パソコンでの多言語・多漢字処理が容易になったこともあり、中国学におけるパソコン・インターネットの利用は進んでいる。

しかし、現在の中国学研究におけるコンピュータやデジタルリソースの活用方法は、多くが文書作成にワープロソフトを利用し、単純に字句を検索するというレベルに留まっており、デジタルリソースを有効に活用できているとは言い難い。一方、デジタル的分析手法については情報の集約がなされておらず、分析手法の妥当性に対する検証も必ずしも充分とはいえない。また、そうした文献分析に用いるツールを使いこなすにはかなり高度なコンピュータの知識が必要となる。

かかる現状に鑑み、情報化時代に対応した中国学研究方法を考究するとともに、その情報集約と一般化をはかり、我が国中国学の新たな研究基盤を確立するものとして、本研究が着想された。

2. 研究の目的

以上の認識に基づき、本研究は、以下の四点に関する考究・開発を通じて、情報化時代に対応した新たな中国学の研究・教育基盤を確立することを目的とする。

(1) 中国学デジタルリソース情報の集約・分析 テキストデータ・データベース製品・文献画像データなど多種多様なデジタルリソースに関する情報を幅広く収集し、情報化時代に対応した資料調査方法を集積する。

(2) 中国学基礎共有コンテンツの整備 漢字・熟語・固有名詞などの情報は、文献分析に必須であるため、共有コンテンツとして整理・公開されるべきである。このため、既存データを集約・整理するとともに、著作権保護期間の切れた辞書を入力し、共有コンテンツの充実を図る。また、中国学コンテンツの公開に伴う著作権等の法律問題について、法学者のアドバイスを受けつつ考究する。

(3) 電子テキスト分析方法の考究と分析ソフトの開発 中国学に限らず、広く日本学や欧米人文学の成果を参照しつつ、さまざまな電子テキスト分析方法・ツールの集約および開発を行う。

(4) 情報化時代に対応した中国学・中国語学教育方法の考究・実践 中国語教育や中国学専門教育におけるコンピュータの有効な活用方法を考案・検証するとともに、その基礎的理論を考究する。また、(1)～(3)の成果を踏まえつつ、情報化時代の中国学を学ぶ学生・研究者にとって必要な教授内容・

カリキュラム等を検討し、本研究で考究する次世代中国学研究基盤の定着と実用化を進める。

3. 研究の方法

本研究では、まず既存のデジタルリソースやテキスト分析方法に関する情報の収集・整理し、またアンケートを通じて中国学研究者・大学院生・学生の情報リテラシーの実態調査を行い、研究を遂行するための基礎を確立する。その上で、研究目的達成のために研究組織を A. デジタルリソースグループ、B. テキスト分析グループ、C. 情報化教育グループに分けて研究を進める。

A. デジタルリソースグループは、基本コンテンツの整理・評価および公開を進める。これとあわせて、学術情報の公表や共有コンテンツの構築・利用など研究全体に関わる、著作権等法律問題に関する検討を進める。

B. テキスト分析グループは、内外の先行研究から、情報化に対応した人文学研究方法を収集し、収集された関連書籍・先行論文を検討する。その上で、中国学の県級・教育に有効な方法を選定もしくは開発する。その成果を随時発表するとともに、研究・教育の場で当該方法を実践、フィードバックすることで、方法のブラッシュアップを行う。

C. 情報化教育グループは、まず研究代表者・分担者の関連授業の事例を集約し、情報化に対応したカリキュラムを策定する。その上で、中国学専門教育や導入教育のための参考書・教科書を制作する。また CAI については、最新のデジタルコンテンツ・ガジェットなどの教育への応用に関する情報とノウハウの集積および先行研究・事例の収集・検討を行い、その有効性を客観的に検証する。

4. 研究成果

本研究では、研究期間を通じて、研究代表者・分担者が運営する漢字文献情報処理研究会との連繋のもと、毎年 2 回のシンポジウム・学会を開催するとともに、同機関誌『漢字文献情報処理研究』(年刊)を通じて、研究成果の公表とレビューを行った。

初年度である平成 23 年度に中国学を専攻する学部学生・大学院生・教員を対象にアンケート調査を実施、中国学関連の情報リテラシーおよび中国学教育情報化の状況把握につとめた。また、各種リソースに関する情報の収集・整理を進めるとともに、各データおよびソフトウェアの研究上の有効性の評価を進め、その成果として『電脳中国学入門』を刊行した。

中国学教育情報化の検討を通じて初年次教育の重要性が浮上してきたため、平成 24 年度に集中的に研究を進め、『大学で学ぼう知のスキルアップ』を刊行した。また平成 25 年度には、2013 年サマー・カンファレンス「大学教養課程と ICT 教育」(2013 年 7 月 27 日、北海道大学)を開催して、初年次教育および

中国語教育における ICT 活用に関する情報の発信・収集を行った。

これらと併行して、インターネットを通じた学術情報発信、および ICT 対応授業において重要になる著作権を始めとする法的問題に関する分野横断的研究を進め、シンポジウム「電子書籍時代のプラットフォームとコンテンツ」(2011年7月31日、慶應大阪リバーサイドキャンパス)、同「デジタル書籍・著作権に関する最新動向～これからの東アジアにおけるデジタル文化のために～」(2012年7月28日、関西大学 CSAC)などを開催、その成果を『人文学と著作権 - 研究・教育のためのコンプライアンス』としてとりまとめた。

中国学デジタルリソースについては、『電脳中国学入門』刊行後も情報の収集と整理を継続的に行い、『漢字文献情報処理研究』の特集「もっと『電脳中国学入門』」(第12号)、「特集2 東洋学論文検索指南」(第14号)などの形で成果を公表するとともに、中国のみならず日本・韓国・ベトナムなど各国の状況に関して、講演や原稿を依頼して情報の収集と整理を行った。また、中国古典電子テキストやデータベースの評価基準や、自然言語処理による文献分析方法などに関する検討を進めた。さらに、共有デジタルリソースとして『中国古今地名大辞典』を入力、仮公開するとともに、漢籍国字解本『論語』の入力を中国企業に委託し、漢文訓読文献のデジタル化における技術的問題を検討した。

中国語学教育における CAI については、『漢字文献情報処理研究』第12～16号に事例報告を掲載して広く情報の収集と発信に努めるとともに、理論的な深化をはかった。

最終年度である平成27年度には、2015年夏期公開シンポジウム「情報化時代における中国学次世代研究・教育基盤を考える～漢情研出版書籍の活用実践と評価～」を開催して、本研究の成果図書『中国学・大学院授業等での活用についてフィードバックを受けた。それを踏まえて、大学・大学院の入門教育・専門教育および語学教育における情報化対応のあり方に関する知見を総合して論文として公表するとともに、『論集：中国学と情報化』として集大成した。

以上を通じて、本研究の所期の目的は十分に達成されたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計38件)

1. 二階堂 善弘, 電子テキストの発展とさらなる問題点, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.1-10, 査読無
2. 田邊 鉄, 中国語入門授業における CLIL 導入支援と ICT 利用, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.103-118, 査読無
3. 千田大介, 中国古典文献の電子テキストをめぐって 歴史・技術・評価, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.11-28, 査読無
4. 佐藤 仁史, 中国近現代史研究における研究情報のデジタル化, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.79-90, 査読無
5. 小島 浩之, 南宋告身二種管見 併論: インターネット情報と歴史学研究, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.55-78, 査読無
6. 師 茂樹, デジタル時代の文献目録, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.29-38, 査読無
7. 山田 崇仁, 『中国古今地名大辞典』のデジタルテキスト作成と WordPress を利用した Web データベースの構築について, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.39-54, 査読無
8. 上地 宏一, 明朝体漢字字形生成エンジンの評価, 論集: 中国学と情報化, 2016, pp.91-102, 査読無
9. 二階堂 善弘, 明代江南における伽藍神, 関西大学東西学術研究所紀要, 第48輯, 2015, pp.59-68, 査読有
10. 二階堂 善弘, 東南アジアの玄天上帝廟, 東アジア文化交渉研究(関西大学東アジア文化研究科), 第8号, 2015, pp.163-169, 査読有
11. 田邊 鉄, 中国語授業における CTA 活用 脱・初級のための「多念」授業の試み, 漢字文献情報処理研究, 16, 2015, pp.22-25, 査読有
12. 田邊 鉄, メディア系学生の著作権意識ゼミで『人文学と著作権問題』を読んだら, 漢字文献情報処理研究, 16, 2015, pp.142-147, 査読有
13. SATO, Yoshifumi, The Recent History of the Fishing Households of the Nine Surnames: a Survey from the Counties of Jiande and Tonglu, Zhejiang Province, in He Xi and David Faure eds., The Fisher Folk of Late Imperial and Modern China: A Historical Anthropology of Boat-and-Shed Living(London: Routledge), 2015, pp.173-182, 査読無
14. 師 茂樹, R による NGSM ツールの開発と課題, 漢字文献情報処理研究, 16, 2015, pp.26-33, 査読有
15. 山田 崇仁, 金文通解 楚季鐘, 漢字学研究, 第三号, 2015, 53-63, 査読有
16. 山田 崇仁, 『電脳中国学入門』活用事例 中国古典学向け情報科目の教科書として, 漢字文献情報処理研究, 16, 2015, pp.126-136, 査読有
17. 上地 宏一, 2015 年版 文字コード・Unicode 再入門, 漢字文献情報処理研究, 16, 2015, pp.35-44, 査読有
18. 千田 大介, 学術情報収集のスキルとインフラ整備, 漢字文献情報処理研究, 第15号, 2014, pp.12-20, 査読有
19. 師 茂樹, 学術データベースの構築と公開, 漢字文献情報処理研究, 第15号,

- 2014, pp.21-29, 査読有
20. 小島 浩之・千田 大介・二階堂 善弘・師 茂樹・矢野正隆, 東洋学論文検索指南, 漢字文献情報処理研究, 第 15 号, 2014, pp.41-77, 査読有
 21. 山田 崇仁・大形徹・横大路綾子・陳建明, 「漢字」という熟語は、いつ作られたのか(續編), 漢字学研究, 第 2 号, 2014, pp.1-17, 査読有
 22. 田邊 鉄, キャラクターセントリックな外国語教材開発の試み, PC カンファレンス 2013 論文集, 2013, pp.175-176, 査読無
 23. 千田 大介, 新 HSK 大綱単語の性質について—国内教科書・5 級過去問の単語統計を通じて, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.8-20, 査読有
 24. 師 茂樹, 学術団体が初年次教育の教科書を開発する意義—漢字文献情報処理研究会による取り組みを例に—, 初年次教育学会第 6 回大会発表要旨集録, 2013, pp.59-60, 査読無
 25. 山田 崇仁, 続「書契」考, 立命館白川静記念東洋文字文化研究紀要, 第 7 号, 2013, pp.13-32, 査読無
 26. 上地 宏一, 国際符号化文字集合を補完する大規模外字フォントの制作, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, なし, 2013, pp.51-56, 査読無
 27. 田邊 鉄, 大学教養課程で ICT をどう扱うか, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.98-99, 査読有
 28. 師 茂樹, スタディ・スキルズ教育としての ICT 教育—レポートの書き方を中心に, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.100-106, 査読有
 29. 師 茂樹, 「デジタル教科書」をめぐる近年の動向, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.133-138, 査読有
 30. 山田 崇仁, Google マップを使った地理情報の利用と発信について, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.58-64, 査読有
 31. 師 茂樹, Twitter で学会実況なう, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.74-78, 査読有
 32. 小島 浩之, 学会における情報発信の課題—学会誌のデジタルアーカイブ化を中心に, 漢字文献情報処理研究, 第 14 号, 2013, pp.79-82, 査読有
 33. 佐藤 仁史, 近現代中国研究に訪れた本格的なデジタル化の時代: 『申報数拠庫』の紹介, 東方, 379 号, 2012, pp.16-19, 査読無
 34. 上地 宏一, 明朝体漢字の異体化データベースについて, 東洋学へのコンピュータ利用第 2 3 回研究セミナー, 2012, pp.3-31, 査読無
 35. 千田 大介, 中国における大規模古典文献データベースの開発, 三色旗, 第 761 号, 2011, pp.15-19, 査読無
 36. 師 茂樹, コンピュータは電子仏典の夢を見るか, 三色旗, 第 761 号, 2011, pp.20-24, 査読無
 37. 山田 崇仁, 台湾中央研究院の中国古典系データベース, 三色旗, 第 761 号, 2011, pp.9-14, 査読無
 38. 上地 宏一, 漢字処理の現状—文字コード、フォント、外字—, 三色旗, 第 761 号, 2011, pp.3-8, 査読無
- 〔学会発表〕(計 42 件)
1. 二階堂 善弘, マルチ OS の日々, 漢字文献情報処理研究会第十八回大会 パネルディスカッション「漢情研 回顧と展望」, 早稲田大学戸山キャンパス(東京都新宿区), 2016 年 3 月 14 日
 2. 千田 大介, リアルなバーチャル研究会: 漢情研活動回顧, 漢字文献情報処理研究会第十八回大会 パネルディスカッション「漢情研 回顧と展望」, 早稲田大学戸山キャンパス(東京都新宿区), 2016 年 3 月 14 日
 3. 師 茂樹, 漢情研が投げかけたもの: N グラム・教育・法学・電子書籍, 漢字文献情報処理研究会第十八回大会 パネルディスカッション「漢情研 回顧と展望」, 早稲田大学戸山キャンパス(東京都新宿区), 2016 年 3 月 14 日
 4. 佐藤 仁史, フィールドで集める史料、フィールドで読む史料, 南山大学アジア・太平洋研究センター主催講演会「史料をめぐる「冒険」—近現代中国地域史研究の場合」, 南山大学(愛知県名古屋市), 2016 年 1 月 9 日
 5. 二階堂 善弘, 『水滸全傳』與華光大帝信仰, 「道教與文學」國際學術研討會(「道教と文学」國際シンポジウム)(國際学会), 香港浸會大學 Hong Kong Baptist University(香港), 2015 年 12 月 9 日
 6. 佐藤 仁史, 民国時期日本在上海地区の宗教調査: 以大谷派僧侶藤井草宣為例, 中央研究院台湾史研究所主催「第四届族群、歷史与地域社会研討會」(國際学会), 台湾中央研究院台湾史研究所(台湾・台北市), 2015 年 11 月 20 日
 7. 佐藤 仁史, 民俗“復興”的時代性: 宣卷与江南农村的民俗生活, “全球史視野下的江南文化与社会变遷”國際學術研討會(國際学会), 蘇州科技学院(中国・蘇州市), 2015 年 11 月 14 日
 8. 田邊 鉄, 中国語 CALL 授業における ICT と TF を活用したアクティブラーニングの試行的導入, 国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム, 大阪大学(大阪府吹田市), 2015 年 11 月 12 日
 9. 佐藤 仁史, 従林産看近代銭塘江流域社会: 以建徳和桐蘆の口述調査为中心, 2015 年中国社会科学論壇: 中国古代社会

- 变化与思想变遷国際学術研討会(国際学会),中国社会科学院歴史研究所(中国・北京市),2015年11月6日
10. 田邊 鉄,中国語授業におけるフィクション産出の効果,日本教育工学会第31回全国大会,電気通信大学(東京都調布市),2015年9月21日
 11. 上地 宏一, GlyphWiki:漢字字形自由共有網站,東亞文字與文化國際研討會(世界漢字學會第三屆年會,越南社會科學翰林院(ベトナム・ハノイ市),2015年8月15日
 12. 田邊 鉄,メディア・コンテンツ系院生の著作権意識 - ゼミで『人文学と著作権問題』を読んでみたら,漢字文献情報処理研究会2015年夏期公開シンポジウム:情報化時代における中国学次世代研究・教育基盤を考える~漢情研出版書籍の活用実践と評価~,鍵屋荘(京都府京都市),2015年8月1日
 13. 山田 崇仁,『電腦中国学入門』活用事例:中国古典学向け情報科目の教科書として,漢字文献情報処理研究会2015年夏期公開シンポジウム:情報化時代における中国学次世代研究・教育基盤を考える~漢情研出版書籍の活用実践と評価~,鍵屋荘(京都府京都市),2015年8月1日
 14. 二階堂 善弘,「日中寺院における伽藍神の探求」,ICISシンポジウム「文化交渉学のパスペクティブ」,関西大学以文館(大阪府吹田市),2015年7月19日
 15. 二階堂 善弘,「禹王と中国の水神信仰(Yuwang and Chinese Water Gods Worship)」,東アジア文化交渉学会第七回大会(SCIEA the 7th Annual Meeting 2015)(国際学会),開成町福祉会館(神奈川県開成町),2015年5月9日
 16. 千田 大介,中国古典戯曲データベースの拡張と改善,漢字文献情報処理研究会第17回大会,東京大学大学院経済学研究科・学術交流棟(小島ホール)1階第2セミナー室(東京都文京区),2014年12月23日
 17. 田邊 鉄,言語教材における「キャラ立ち」と声色,日本教育工学会第30回全国大会,岐阜大学(岐阜県岐阜市),2014年9月19日
 18. 千田 大介,学術情報収集のスキルとインフラ整備,漢字文献情報処理研究会2014年度夏期公開シンポジウム「情報化時代における中国学研究基盤を考える」,関西大学CSAC4階セミナースペース(大阪府吹田市),2014年8月2日
 19. 師 茂樹,学術データベースの構築と公開,漢字文献情報処理研究会2014年度夏期公開シンポジウム「情報化時代における中国学研究基盤を考える」,関西大学CSAC4階セミナースペース(大阪府吹田市),2014年8月2日
 20. 木村 守・上地 宏一,對日本學生教漢字中的異體字問題,第五屆“漢字與漢字教育”國際研討會,高麗大学校(韓国・ソウル市),2014年7月12日
 21. 田邊 鉄,CALL科目におけるBlended LearningとTAの学び合い,e-Learning教育学会第12回大会,関東学院大学文学部(神奈川県横浜市),2014年3月15日
 22. 山田 崇仁,『中国古今地名大辞典』のデジタルテキスト作成とWordpressを利用したWeb公開について,漢字文献情報処理研究会第十六回大会,花園大学・拈花館202教室(京都府京都市),2013年12月22日
 23. 二階堂 善弘,日中両言語混在テキストデータリソースの継承について,漢字文献情報処理研究会第十六回大会,花園大学・拈花館202教室(京都府京都市),2013年12月22日
 24. 二階堂 善弘,漢字字符與漢籍數據庫The Encoding of Chinese Characters and Digital Databases of Chinese Texts,2nd AEARU Symposium on the Culture Chinese Characters(東アジア研究型大学協会第二回漢字文化シンポジウム)(国際学会),清華大学(台湾・新竹市),2013年12月9日
 25. 師 茂樹,学術団体が初年次教育の教科書を開発する意義—漢字文献情報処理研究会による取り組みを例に一,初年次教育学会第6回大会,金沢工業大学(石川県野々市),2013年9月13日
 26. 木村 守・上地 宏一,如何对已学過簡体字的日本學生教繁體字,第4回中国古籍デジタル化國際會議・第6回文学と情報技術國際會議(中国・北京市),2013年8月17日
 27. 師 茂樹,スタディスキルズ教育としてのICT教育—レポートの書き方を中心に—,漢字文献情報処理研究会2013年度サマー・カンファレンス 大学教養課程とICT教育,北海道大学情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室(北海道札幌市),2013年7月27日
 28. 田邊 鉄,中国語CALL教材におけるナビゲーションキャラクターの役割について,e-Learning教育学会,大阪大学(大阪府吹田市),2013年3月16日
 29. 上地 宏一,日中両言語混在テキストデータリソースの継承について,漢字文献情報処理研究会第十五回大会,東京大学(東京都文京区),2012年12月23日
 30. 小島 浩之,図書館・ミュージアム・文書館所蔵資料の利用と研究者,漢字文献情報処理研究会第15回大会,東京大学(東京都文京区),2012年12月23日
 31. 小島 浩之,唐代の泛階と人事政策,2012年度東洋史研究会大会,京都大学

- (京都府京都市), 2012年11月3日
32. 川幡 太一・上地 宏一, GlyphWiki and OpenType: A Collaborative Glyph Development Environment and its Font Exporting System, ATyPl Hong Kong 2012 (国際学会), InnoCentre Hong Kong (香港), 2012年10月11日
 33. 小島 浩之, 平成24年著作権法改正の概要, 2012年度漢字文献情報処理研究会夏期公開シンポジウム, 関西大学(大阪府吹田市), 2012年7月28日
 34. 上地 宏一, 中国語CALL科目の運用について—補助システムと自習教材の検討—, 語学教育研究所第1回研究発表会, 大東文化大学(東京都板橋区), 2012年5月19日
 35. 二階堂 善弘, アジア宗教研究におけるアーカイブズの活用, 関西大学アジア文化研究センター(CSAC)第1回研究集会, 関西大学アジア文化研究センター(大阪府吹田市), 2012年3月27日
 36. 師 茂樹, 日本宗教研究のためのデジタルアーカイブズの現状, 関西大学アジア文化研究センター(CSAC)第1回研究集会, 関西大学アジア文化研究センター(大阪府吹田市), 2012年3月27日
 37. 田邊鉄, スクラッチから文法を紡げるか, e-Learning 教育学会第10回大会, 京都大学(京都府京都市), 2012年3月10日
 38. 小島 浩之, マイクロフィルムの電子化の意義と展開方向: 東京大学における取り組みもふまえて, マイクロフィルム資料の活用にかかわる研究専門委員会公開セミナー「マイクロフィルム資料の電子化にかかわる意義と展開方向」, 京都大学学術情報メディアセンター(京都府京都市), 2012年3月7日
 39. 小島浩之, 蔵書こそは図書館の切り札, 富山大学附属図書館研修会, 富山大学附属図書館(富山県富山市), 2012年2月16日
 40. 二階堂 善弘, 古典戯曲小説のデータ利用について, 中国古典小説研究会2011年度関西例会, 京都キャンパスプラザ・コンソシアム京都(京都府京都市), 2012年2月11日
 41. 師 茂樹, 人文系情報処理教育におけるPBL実践の可能性, 漢字文献情報処理研究会第14回大会・科学研究費補助金 基盤研究(B)「情報化時代における中国学次世代デジタル研究基盤の確立」ジョイントセッション, 花園大学(京都府京都市), 2011年12月18日
 42. 二階堂 善弘, 中国学電子資料を利用した教育研究の現状, シンポジウム「電子書籍・資料のいま: 日本と中国」(人間文化研究機構現代中国地域研究プログラム), 東洋文庫(東京都文京区), 2011年7月15日

〔図書〕(計4件)

1. 二階堂 善弘、千田 大介、師 茂樹、山田 崇仁、小島 浩之、佐藤 仁史、上地 宏一、田邊 鉄, 好文出版, 論集: 中国学と情報化, 2016年, 138ページ
2. 石岡克俊・小島 浩之・上地 宏一・佐藤 仁史・田邊 鉄・千田 大介・二階堂 善弘・師 茂樹・山田 崇仁, 好文出版, 人文学と著作権問題—研究・教育のためのコンプライアンス, 2014年, 236(1-236)ページ
3. 師 茂樹、二階堂 善弘、千田 大介、山田 崇仁、小島 浩之、佐藤 仁史、上地 宏一、田邊 鉄, 好文出版, 大学で学ぼう 知のスキルアップ 15, 2013年, 166ページ
4. 千田 大介、上地 宏一、小島 浩之、佐藤 仁史、田邊 鉄、二階堂 善弘、師 茂樹、山田 崇仁, 好文出版, 電脳中国学入門, 2012年, 231ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://jaet.sakura.ne.jp/kaken>

6. 研究組織

(1)研究代表者

二階堂 善弘 (NIKAIDO, YOSHIHIRO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 70292258

(2)研究分担者

田邊 鉄 (TANABE, TETSU)

北海道大学・情報基盤センター・准教授

研究者番号: 30301922

千田 大介 (CHIDA, DAISUKE)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号: 70298107

佐藤 仁史 (SATO, YOSHIFUMI)

一橋大学・社会(科)学研究科・教授

研究者番号: 60335156

小島 浩之 (KOJIMA, HIROYUKI)

東京大学・経済学研究科(研究院)・講師

研究者番号: 70334224

師 茂樹 (MORO, SHIGEKI)

花園大学・文学部・准教授

研究者番号: 70351294

山田 崇仁 (YAMADA, TAKAHITO)

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号: 20425010

上地 宏一 (KAMICHI, KOICHI)

大東文化大学・外国語学部・講師

研究者番号: 20468721

(3)連携研究者

なし